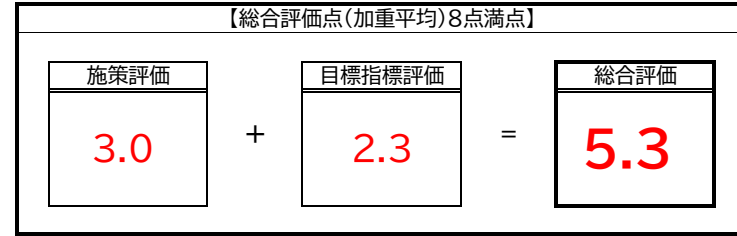


(イ) 食育推進計画

評価点合計(①+②)8点満点 = 施策の進捗(①)4点満点 + 目標指標(②)4点満点

分野	評価点 合計 (①+②)	施策の進捗					目標指標				
		評価点① (加重平均)	評価区分の数				評価点② (加重平均)	評価区分の数			
			A	B	C	D		A	B	C	D
家庭における食育の推進	<u>5.3</u>	<u>3.0</u>	0	2	0	0	<u>2.3</u>	5	0	1	6
保育園、こども園、幼稚園、小中学校における食育推進	<u>4.5</u>	<u>2.3</u>	0	1	3	0	<u>2.2</u>	4	0	0	6
地域における食育推進	<u>3.0</u>	<u>2.0</u>	0	0	2	0	<u>1.0</u>	0	0	0	4
市民との協働による食育推進運動の展開	<u>5.0</u>	<u>3.0</u>	0	2	0	0	<u>2.0</u>	0	1	0	1
環境と共生した食育の推進と食を通じたさまざまな交流の促進	<u>5.1</u>	<u>2.3</u>	0	1	3	0	<u>2.8</u>	2	0	1	1

食育推進計画	
基本方針	(1)家庭における食育の推進
施策方針	・朝食を毎日食べる人を増やします。 ・主食・主菜・副菜を組み合わせたバランスの良い食事を心がけ、実践している人を増やします。



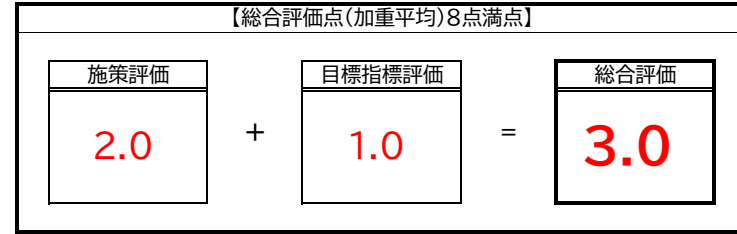
① 施策の目標達成状況(2018年度～2024年度)				② 計画期間(2018年度～2024年度)における「施策」の現状と課題		③ 次期計画(第3次)(2025年度～2030年度)における「施策」の方向性	
施策内容	評価	評価の理由	実施した事業名	施策に係る成果および現状	施策に係る未達成の課題および新たな課題	今後の「施策」の方向性	今後必要な取り組み(施策・事業)
(重点)朝食を毎日食べることにについては、重点的に啓発していきます。	B	コロナ前の2018～2019年には、小中学校にて調理体験を通し、朝食の大切さを伝えました。乳幼児健診や大人の健診結果説明会では、個別にパンフレット等で啓発しています。	・小中学校での食育教室 ・乳幼児健診での栄養相談 ・健診結果返しにて指導 ・健康レシピにて朝食メニュー紹介	朝食摂取状況調査より、湖南市の小中学生は朝食の大切さを認識している子が多い結果となっています。乳幼児期から高齢期まで健診や広報等を通じて啓発しています。	朝食の大切さを認識している子が多い一方、朝食を毎日食べている小中学生の割合は低く、行動に結びつけるための後押しが必要となっています。乳幼児期や学童期は、保護者への啓発も重要です。	継続	・朝食等の啓発について、食育教室や個別栄養相談、健康イベント、広報を通して引き続き行います。
○生涯にわたって家庭での食育が基本になるため、子どもの時から望ましい食習慣を身につけられるよう支援していきます。	B	乳幼児健診にて、子どもの頃からの食事について確認し、指導を行っています。また、保護者世代でもある成人健診受診者や健康推進員事業に参加した子どもたちに、バランスの良い食事について啓発を行っています。	・乳幼児健診での栄養相談 ・健診結果返しにて指導 ・健康推進員事業(生涯を通じた食育推進活動等)	保健事業により保護者世代を通して望ましい食習慣を伝えていきます。健康推進員事業と連携しながら、子どもたちにも食事バランスガイドを使った健康教育を実施し、啓発しています。	偏食や孤食などの問題も踏まえながら、ライフスタイルに合った啓発をしていく必要があります。	継続	・生活習慣の現状を踏まえ、その中で適切な望ましい食習慣を啓発していきます。
施策評価点(小計)	6	評価指標 (A)計画の目標を超える成果を得た ……4点 (B)計画どおりに目標達成した ……3点 (C)やや変更はあったが概ね目標達成した……2点 (D)大幅な変更や遅れがあり目標達成できなかった ……1点					

食育推進計画	
基本方針	(2)保育園、こども園、幼稚園、小中学校における食育推進
施策方針	・子どもの頃から即に関する正しい知識の教育や体験活動の機会に触れ、関心を持って取り組める子を増やします。

【総合評価点(加重平均)8点満点】		
施策評価	目標指標評価	総合評価
2.3	+	2.2 = 4.5

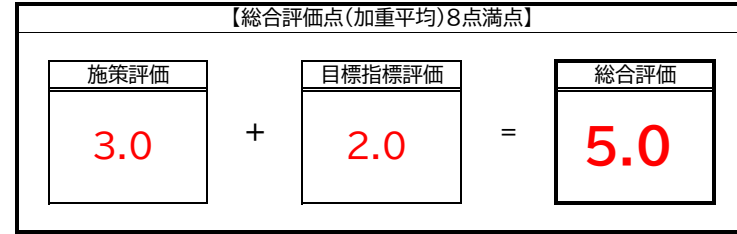
① 施策の目標達成状況(2018年度～2024年度)				② 計画期間(2018年度～2024年度)における「施策」の現状と課題		③ 次期計画(第3次)(2025年度～2030年度)における「施策」の方向性	
施策内容	評価	評価の理由	実施した事業名	施策に係る成果および現状	施策に係る未達成の課題および新たな課題	今後の「施策」の方向性	今後必要な取り組み(施策・事業)
(重点)各園、各小中学校での食育指導、体験活動の機会を充実させます。	C	食育指導は栄養士により、実施しています。体験活動は、コロナ禍の影響で調理実習が実施できない時期はありましたが、野菜の栽培、収穫等は実施しました。	・園での媒体食育指導 ・農業体験 ・栄養教諭による食育の授業 ・健康推進員による食育教室	コロナ禍を除いて、各園、小中学校での食育指導は実施してきました。野菜や米を収穫するなどの農業体験は継続して行っています。	調理体験の機会が少なくなったため、感染予防に留意しながら増やしていく必要があります。	継続	・各園、小中学校において、食育指導、特に体験活動の機会提供を継続して行います。
○学校給食における地元産農産物の利用など継続して実施できているものは引き続き実施いき、見直ししながら進めていきます。	C	米と味噌は100%使用できない時期もありましたが、概ね湖南市産を使用しました。野菜などの農産物についても、可能な限り地元産に努めています。	・学校給食における地元農産物の利用	米と味噌は概ね湖南市産を使用し、収穫等の都合で使用出来なかった時期は滋賀県産を使用しました。野菜などの農産物は8～9%の使用となっています。	湖南市の特産物である下田なすは、給食に必要な量を賄える取り組みが必要です。	継続	・地産地消の推進を継続して行い、下田なすなどの特産物についても利用できるように取り組みます。
○園、子育て支援センター、児童館、学校保健委員会と連携し、保護者への啓発も含めて食育を推進していきます。	C	園においては、保護者も参加する健康教育の機会に食育に関する啓発も行いました。また、学校においては、学校保健委員会や親子の食育教室を通じて、食育講話を実施しました。	・食育だよりを通じて啓発 ・園での歯科健康教育の中で食育啓発も同時実施。(～2019年) ・子育て支援センターにて栄養士による子育て相談 ・学校保健委員会での食育啓発 ・健康推進員による食育教室	健康教育や食育に関する事業の機会をとらえて保護者にも啓発を行っています。園、学校では食育だよりの発行も行い、各家庭に配布しています。	保護者への啓発の場が減少しているため、ITなどを活用した効果的な啓発を検討していく必要があります。	継続(一部変更)	・保護者に直接啓発する機会も活用しながら、IT化や子どもを通じた啓発を工夫しながら行っています。
○食の安全、衛生について最新情報を提供し、啓発していきます。	B	給食における食物アレルギーの情報は確実に提供を行いました。県から提供のある食中毒注意報も各関係機関や市民に周知し、注意喚起を行っています。	・給食における食物アレルギー情報の提供 ・食中毒注意報の周知	食の安全や衛生に関する重要な情報については、関係機関にお知らせするとともに、SNSなどを通じて注意喚起を行っています。	食中毒注意報などの注意喚起は今後も分かりやすく、多くの人にいきわたるように周知していく必要があります。	継続	・食の安全や衛生に関する必要な情報は、引き続き様々な媒体を通じて周知し、注意喚起を行っていきます。
施策評価点(小計)	9	評価指標 (A)計画の目標を超える成果を得た ……4点 (C)やや変更はあったが概ね目標達成した…2点		(B)計画どおりに目標達成した ……3点 (D)大幅な変更や遅れがあり目標達成できなかった ……1点			

食育推進計画	
基本方針	(3)地域における食育推進
施策方針	・地域住民が支え合って食育を推進できるように食育を実践する人材を充実させ、健全な食生活を送る人を増やします。



① 施策の目標達成状況(2018年度～2024年度)				② 計画期間(2018年度～2024年度)における「施策」の現状と課題		③ 次期計画(第3次)(2025年度～2030年度)における「施策」の方向性	
施策内容	評価	評価の理由	実施した事業名	施策に係る成果および現状	施策に係る未達成の課題および新たな課題	今後の「施策」の方向性	今後必要な取り組み(施策・事業)
(重点)一人でも多くの方が健全な食生活を送ることができるよう、栄養や食育に関する学習の場を増やします。	C	コロナ禍で地域に出向いて実施する健康教育の機会は減少した時期もありましたが、職域などの新しい分野とも連携しながら学習できる場を増やすように努めました。	・地域や団体等における健康教育の実施 ・健康推進員事業における健康料理教室の実施 ・健康機器を使用した啓発活動の実施	地域や団体、職域分野に対し、生活習慣病予防の健康教育にて、栄養に関する講話を実施しています。健康機器も活用しながら、保健事業、地域イベントなどのあらゆる機会を用いて啓発しています。	無関心層にも学習の機会が得られるように、実施場所、実施内容を工夫しながら実施していく必要があります。	継続	・あらゆる機会を活用しながら、各ライフステージをとりこぼすことなく、栄養に関する学習の場を提供していきます。
○健康推進員をはじめとする食育を実践するための人材育成を進めます。	C	2020年度は健康推進員養成講座を開催しませんでした。それ以外の年度はすべて開催し、健康推進員を養成しました。	・健康推進員養成講座の開催	健康推進員養成講座を修了し、新たに健康推進員として活動している人は毎年約5人前後であり、2018～2022年度末の合計は27人となりました。	健康推進員の退会者が養成人数を上回り、健康推進員の会員数は減少傾向にあります。退会者を減少させるとともに、養成人数も増加させる必要があります。	継続	・養成講座を引き続き開催し、受講者数を増やすために、健康推進員の効果的な周知や声かけ運動を実施していきます。
施策評価点(小計)	4	評価指標	(A)計画の目標を超える成果を得た ……4点 (C)やや変更はあったが概ね目標達成した……2点	(B)計画どおりに目標達成した ……3点 (D)大幅な変更や遅れがあり目標達成できなかった ……1点			

食育推進計画	
基本方針	(4)市民との協働による食育推進運動の展開
施策方針	・食育に関心を持ち、実践する人を増やします。



① 施策の目標達成状況(2018年度～2024年度)				② 計画期間(2018年度～2024年度)における「施策」の現状と課題		③ 次期計画(第3次)(2025年度～2030年度)における「施策」の方向性	
施策内容	評価	評価の理由	実施した事業名	施策に係る成果および現状	施策に係る未達成の課題および新たな課題	今後の「施策」の方向性	今後必要な取り組み(施策・事業)
○市や甲賀圏域で実施している食育推進会議を通じて他団体とも連携し、食育の輪を広げます。	B	市では定期的に食育推進会議を開催し、各関係機関と連携を図っています。甲賀圏域での食育推進会議にも参画しています。	・湖南省食育推進会議の開催 ・甲賀・湖南食育推進担当者会議の参加	毎年、市の食育推進会議を年2回開催し、各関係機関の取り組みについて情報共有し、より良い連携がとれるように話し合っています。	食育に関連する様々な課題に対し、効果的な取り組みが実施できるよう、密に連携をとっていく必要があります。	継続	・食育を推進していくために、各関係機関とのネットワークを強化し、連携していきます。
○一人ひとりが食育に関心を持って取り組んでいけるように、「食育月間」、「食育の日」を含め、広報やイベントなどさまざまな機会を通じて情報提供、啓発を行います。	B	食育月間(6月)では、広報やホームページ、図書館などの施設にて啓発しています。食育の日(19日)は、健康推進員と連携し、啓発物品の配布など周知活動を行っています。	・食育月間における周知啓発の実施 ・食育の日における啓発物品の配布	食育月間では、たくさんの市民の目に触れるよう、広報、ホームページ、モニター広告、公共施設での展示などあらゆる媒体を使いながら周知を行っています。	食育に関する認知度をさらに高めるために、市民が情報を得やすい媒体や場所を検討しながら、周知していく必要があります。	継続	・食育月間や食育の日も活用しながら、食育に関する情報を得やすい環境づくりを推進していきます。
施策評価点(小計)	6	評価指標 (A)計画の目標を超える成果を得た ……4点 (B)計画どおりに目標達成した ……3点 (C)やや変更はあったが概ね目標達成した……2点 (D)大幅な変更や遅れがあり目標達成できなかった ……1点					

食育推進計画	
基本方針	(5)環境と共生した食育の推進と食を通じたさまざまな交流の促進
施策方針	・食の安全や環境に配慮して食生活を送る人を増やします。

施策評価	+	目標指標評価	=	総合評価
2.3		2.8		5.1

① 施策の目標達成状況(2018年度～2024年度)				② 計画期間(2018年度～2024年度)における「施策」の現状と課題		③ 次期計画(第3次)(2025年度～2030年度)における「施策」の方向性	
施策内容	評価	評価の理由	実施した事業名	施策に係る成果および現状	施策に係る未達成の課題および新たな課題	今後の「施策」の方向性	今後必要な取り組み(施策・事業)
○地産地消や環境こだわり農産物を増やす取り組みを推進し、安全・安心な食品が食べられる環境を作ります。	B	下田なす、東寺ごぼう、朝国しょうがなどの特産物について、広報やレシピの設置など周知啓発を行いました。環境こだわり農産物の栽培面積を増やすための支援も行っています。	・広報などによる特産物の周知啓発 ・給食での地元農産物の利用 ・環境こだわり農産物栽培の支援 ・伝統野菜(東寺ごぼう・朝国しょうが)復刻プロジェクト	地産地消を推進するために、特産物の周知や園、学校の給食においては地元農産物の利用に努めています。また、環境こだわり農産物の栽培支援として、共通技術の導入や共同防除を実施しています。	環境こだわり農産物の栽培面積は、2020年度をピークに減少傾向にあり、支援の強化をしていく必要があります。	継続	・環境こだわり農産物を含め、地元農産物を絶やさないために、農業の支援を行い、地元で消費できる環境づくりを行います。
○農業体験農園の整備などたくさんの人が体験活動を経験できる機会を作ります。	C	園や学校では、野菜や米の収穫など農業体験活動を継続して実施しています。農業塾は廃止になりましたが、市民農園は適正な維持管理と利用促進を行っています。	・園での野菜収穫体験の実施 ・学校での農業体験学習「たんぼのこ」事業の実施 ・農業塾での農業体験(2020年度まで) ・市民農園の管理	園児や児童は、野菜や米などの収穫体験により、子どもの時期に何らかの農業体験を持つ機会が得られています。市民農園も継続して活用しています。	大人の農業体験は機会が限られています。地元農産物を増やしていくためには、体験を通して農業に興味を持ち、農業を始める人を増やしていく必要があります。	継続	・子どもから大人まで農業体験が経験できる機会を増やし、農業を始めるきっかけづくりを行っていきます。
○伝統料理、外国料理、交流都市など食文化の交流は継続し、関心も高めます。	C	園や学校の給食において、滋賀県の郷土料理やブラジル料理などの外国料理を提供しました。また健康推進員の事業にて、郷土料理のレシピを子どもたちに伝える活動を行っています。	・給食(園、学校)にて郷土料理や外国料理の提供 ・健康推進員事業「生涯を通じた食育推進活動」、「にっぽん縦断!郷土・伝統料理教室」の実施	給食においては、生きる教材として子どもたちが郷土料理や外国料理に触れ、関心を高めながら学習をしています。健康推進員による啓発活動では、主に子どもを対象に郷土料理のレシピ提供や調理実習を行っています。	多様な食文化を理解し、交流を継続していくためには、地域における取り組みを継続し、ホームページなどの媒体を通して周知していく必要があります。	継続	・郷土料理や外国料理について、給食による提供や地域での調理実習などを通じた啓発を引き続き行っていきます。
○食品ロス削減など環境に配慮した啓発も実施します。	C	学校給食の残食を減らす取り組みを行い、子どもたちが食品ロスについて学習しています。また、健康推進員と連携し、エコクッキングレシピを作成しました。広報にて、食品ロス削減に関する啓発も行いました。	・学校給食における食品ロス削減の取り組み ・エコクッキングレシピ作成 ・広報等による食品ロスの啓発	学校給食センターより残食の量や種類などを、各学校に周知することにより、残食の取り組みを行い、食品ロスについて子どもたちが考える機会を持っています。給食センターの調理くずは、堆肥に変えて活用しています。	食品ロスは、環境負荷や食料不足など社会全体において喫緊の課題であり、市民への啓発や取り組みやすい環境づくりを行っていく必要があります。	継続	・学校給食や家庭における身近な食品ロスの問題に関心を持ち、削減に向けて取り組めるように啓発を継続して行っていきます。
施策評価点(小計)	9	評価指標 (A)計画の目標を超える成果を得た ……4点 (C)やや変更はあったが概ね目標達成した……2点		(B)計画どおりに目標達成した ……3点 (D)大幅な変更や遅れがあり目標達成できなかった ……1点			

## 目標指標の評価結果(総括)

### ■食育推進計画

目標指標			評価点 (加重平均)	評価			
				A	B	C	D
1 家庭における食育の推進(計画書P80~82)			<b>2.3</b>				
	重点	目標	評価点(小計)	A	B	C	D
1	○	(再掲)朝食を欠食する人の減少	19	3		1	5
2	-	家族そろっての食事の推進	8	2			
3	-	(再掲)バランスの良い食事をしている人の増加	1				1
2 保育園、こども園、幼稚園、小中学校における食育推進(計画書P83~84)			<b>2.2</b>				
	重点	目標	評価点(小計)	A	B	C	D
1	○	子どもを対象とした食に関する体験活動の推進	5	1			1
2	-	食に関する指導の充実、食に関する啓発活動	8	1			4
3	-	地元農産物を取り入れた小中学校給食の実施	9	2			1
3 地域における食育推進(計画書P85~86)			<b>1.0</b>				
	重点	目標	評価点(小計)	A	B	C	D
1	○	生活習慣病予防と食育推進	2				2
2	-	食育を実践するための人材育成	2				2
4 市民との協働による食育推進運動の展開(計画書P87~88)			<b>2.0</b>				
	重点	目標	評価点(小計)	A	B	C	D
1	-	食育に関心のある人、実践する人を増やす	4		1		1
5 環境と共生した食育の推進と食を通じたさまざまな交流の促進(計画書P89~90)			<b>2.8</b>				
	重点	目標	評価点(小計)	A	B	C	D
1	-	環境こだわり農業の理解促進	2			1	
2	-	農業に関する体験活動の実施	4	1			
3	-	伝統的な食文化の継承	1				1
4	-	食品ロス削減	4	1			

■食育推進計画

1 家庭における食育の推進(計画書P80~82)

	重点	目標	指標	区分	小区分	単位	基準値	実績		目標	推移(最大値・最小値)	評価
							2016年	2018年	2022年	2022年	2018年~2022年	
1	○	(再掲)朝食を欠食する人の減少	(再掲)朝食を欠食する人の割合 ※R5健康づくり調査	5歳児	男女	%	4.6	-	1.6	3.9	-	A
				小5	男	%	11.0	-	11.0	9.3	-	C
					女	%	6.6	-	9.3	5.6	-	D
				中2	男	%	12.3	-	8.7	10.4	-	A
					女	%	8.8	-	9.7	7.5	-	D
				20歳代	男	%	16.2	-	17.4	14.5	-	D
					女	%	15.4	-	21.2	13.7	-	D
				30歳代	男	%	15.0	-	20.0	12.9	-	D
					女	%	18.4	-	14.3	16.3	-	A



2	-	家族そろっての食事の推進	ひとりで食事をしている子の割合 ※R5健康づくり調査	小5	朝食	%	22.4	-	17.6	20.8	-	A
					夕食	%	3.0	-	1.4	2.7	-	A
3	-	(再掲)バランスの良い食事をしている人の増加	(再掲) 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている者の割合 ※R5健康づくり調査	20歳以上	男女	%	-	-	61.5	70	-	D

2 保育園、こども園、幼稚園、小中学校における食育推進(計画書P83~84)

	重点	目標	指標	区分	小区分	単位	基準値	実績		目標	推移(最大値・最小値)	評価
							2016年	2018年	2022年	2022年	2018年~2022年	
1	○	子どもを対象とした食に関する体験活動の推進	体験学習取り組み実施園の割合(各園へのアンケート)	園	—	%	100	100	100	100		A
			体験学習取り組み実施小中学校(13校)の割合(湖南省健康推進員協議会)	健康推進員の食育教室	—	%	53.8 (7/13校)	69.2 (9/13校)	0	69.2 (9/13校)		D
2	-	食に関する指導の充実、食に関する啓発活動	(再掲)児童・生徒の肥満児の割合(湖南の子どものからだ)	小学生	男	%	4.8	5.3	7.8	4.3		D
					女	%	3.4	3.9	5.1	2.9		D
				中学生	男	%	3.6	3.2	6.9	1.9		D
					女	%	4.2	5.3	6.6	3.7		D
			食に関する指導の取り組み実施園の割合(各園へのアンケート)	園	—	%	100	100	100	100		A

3	—	地元農産物を取り入れた小中学校給食の実施	学校給食における地元産農産物の利用割合 (学校給食センター)	米	—	%	100	100	100	100		A
				味噌	—	%	100	90	58	100		D
				その他農産物	—	%	7.0	8.0	8.3	7.7		A

### 3 地域における食育推進(計画書P85～86)

	重点	目標	指標	区分	小区分	単位	基準値	実績		目標	推移(最大値・最小値)	評価
							2016年	2018年	2022年	2022年	2018年～2022年	
1	○	生活習慣病予防と食育推進	成人期の栄養に関する健康教育受講者および栄養相談者数(健康政策課事業実施記録)	—	延べ人数	人	1,511	1,470	685	増加	<p>1,842 140</p>	D
			地域での料理講習会参加者数(湖南省健康推進員協議会)	—	延べ人数	人	737	655	0	増加	<p>655 0</p>	D
2	—	食育を実践するための人材育成	健康推進員の人数(湖南省健康推進員協議会)	—	—	人	102	101	90	108	<p>101 88</p>	D
			健康推進員のいない行政区(43区)の数(湖南省健康推進員協議会)	—	区数	区	7	5	10	0	<p>5 10</p>	D

### 4 市民との協働による食育推進運動の展開(計画書P87～88)

	重点	目標	指標	区分	小区分	単位	基準値	実績		目標	推移(最大値・最小値)	評価
							2016年	2018年	2022年	2022年	2018年～2022年	
1	—	食育に関心のある人、実践する人を増やす	食育に関心のある人の割合※R5健康づくり調査	—	—	%	63.4	—	64.4	65.0	—	B
			食育を実践している人の割合※R5健康づくり調査	—	—	%	46.1	—	43.7	49.5	—	D

5 環境と共生した食育の推進と食を通じたさまざまな交流の促進(計画書P89~90)

	重点	目標	指標	区分	小区分	単位	基準値	実績		目標	推移(最大値・最小値)	評価
							2016年	2018年	2022年	2022年	2018年~2022年	
1	-	環境こだわり農業の理解促進	環境こだわり農産物の栽培面積 (農林振興課)	-	-	ha	315	315	328	345		C
2	-	農業に関する体験活動の実施	農業体験を経験した人の割合 ※R5健康づくり調査	20歳以上	-	%	-	-	54.5	40	-	A
3	-	伝統的な食文化の継承	地域の郷土料理・伝統料理を知っている人の割合 ※R5健康づくり調査	20歳以上	-	%	66.8	-	66.2	70	-	D
4	-	食品ロス削減	食べ残しを作らない努力をしている人の割合 ※R5健康づくり調査	20歳以上	-	%	89.8	-	95	92	-	A